

令和7年度 持続可能な観光地づくり事業について

1 背景

日本政府観光局の推計では、令和6年の訪日外客数は、約3,687万人となり、過去最多となった。本区も令和6年観光客数の推計が4,121万人（うち外国人観光客数640万人）で、外国人観光客数は前年比で45%の増となるなど、活況を呈している。

一方で、来街者のマナーや習慣の違いによる課題も生じており、「台東区区政サポーターアンケート」において観光客受入好意度は、令和5年度の90.9%から令和6年度は86.1%と4.8ポイント低下した。

2 目的

観光客集中による地域への影響に対し、観光客、地域住民及び事業者等と協働して課題解決に向けた取組を進めることで、将来にわたり持続可能な観光地づくりを推進する。

3 令和6年度事業の実施結果について

別添のとおり

4 令和7年度事業展開について

令和6年度に浅草地区を対象に実施した結果、活動がテレビ等のメディアにも取り上げられる等、幅広く啓発ができた一方で、観光客や地域住民、事業者等の多様な主体と連携した事業展開を推進するためには、更なる関係構築や連携が必要であることが見え始めた。

そのため、令和7年度は令和6年度の実施結果を踏まえた上で、課題等に対して対応を図るため、継続して浅草地区で事業を実施するほか、上野地区でも新たに事業を展開するなど、持続可能な観光地づくりを推進するためのより効果的な手法について検討を進めていく。

【具体的な取組】

（1）マナー啓発

① リーフレット等の作製・配布

観光案内所、観光バス降車場等で、リーフレット及び持ち帰り用ごみ袋を配布する。また、区内の宿泊施設等に常設できる下敷き型の啓発シートを配布する。

(2) ごみ対策

① ポイ捨て禁止啓発等活動

啓発員が地区内を巡回してごみを回収するとともに、ごみ投棄者への注意指導や観光案内などを通じて、マナー意識の向上を図るための啓発活動を実施する。

対象地区：浅草地区、上野地区

実施期間：10月～11月（予定）

② ごみ拾いイベント等の開催

上野地区では、区民や観光客が楽しみながら参加できるイベント等を開催し、ごみ拾いの他マナー意識の向上を図る。また、浅草地区では、小規模のガイドツアー客に対して、コンテンツの一つとして活動を実施する。

対象地区：浅草地区、上野地区

実施期間：10月～11月（予定）

③ ポイ捨て禁止啓発多言語掲示物

多言語表記のポイ捨て禁止啓発の掲示物を作成し、店舗やごみの多い地点等で掲示することにより、ポイ捨て禁止に対する意識の啓発を図る。

(3) トイレ・公衆喫煙所対策

区内の公衆喫煙所や公衆トイレの位置等を一元化した多言語対応WEBページ（令和6年度作成）を活用し、ページに遷移する二次元コードを印刷したカードや卓上スタンドを店舗や宿泊施設等に配付する。

5 補正予算額（案）

歳入 25,304千円

歳出 50,608千円

6 今後の予定

令和7年9月～

事業実施

浅草地区における持続可能な観光地づくり事業の 実施結果について

- 1 実施時期 令和6年9月～令和7年1月
- 2 対象地域 雷門通り、国際通り、言問通り、江戸通りに囲まれた範囲

3 令和6年度実施事業

(1) マナー啓発

① マナー啓発リーフレット等作成

外国人観光客向けの観光マナー啓発リーフレット及び持ち帰り用ゴミ袋を作成し、観光バス降車場にて配布・啓発活動を実施した。

実施期間	令和6年12月1日～令和7年1月31日 計62日間
配布場所	観光バス降車場(主に雷門通り降車場)
配布数	リーフレット・ゴミ袋:8,000部
作成物	
活動の様子	

(2) ごみ対策

① ごみ組成調査

地区内の道路等に投棄されたごみの状況について調査を行い、投棄の多い場所や量、組成を明確にし、今後の観光地におけるポイ捨てごみ対策の基礎資料としてデータ化を行った。

実施日	目視調査:①令和6年11月1日・5日 ②11月30日 組成調査:令和6年11月30日
調査地点	目視調査:981 地点 組成調査:15地点
調査結果	ごみの投棄の最も多い場所は駐車場付近、次にコンビニ前という結果であった。 また、投棄されたごみの種類として、駐車場付近では煙草のポイ捨てが多く、コンビニ前ではプラスチック製品の投棄が多く、製造元が判明でき

	たごみの中ではコンビニのプライベートブランドの飲料用ペットボトル等が多く投棄されていた。
--	--

②ポイ捨て禁止啓発等活動

地区内に啓発員を巡回させ、ごみを回収するとともに、ごみ投棄者への注意指導や啓発物品の配布、公衆喫煙所や公衆トイレ等の案内を実施した。

実施期間	令和6年12月1日～令和7年1月31日 計62日間
実施回数	124回(昼62回、夕方62回)
巡回人員	2名1組、3チーム稼働
実施結果	啓発員が忍者等の衣装を着用して巡回を行い、旅行者との明るいコミュニケーションを図り、啓発を行った。 回収実績は、1日平均でたばこ約300本、紙くず約150枚で、地域住民や店舗事業者から感謝や労いの声掛けも多くあった。 また、衣装が外国人観光客の関心をひき、写真撮影などにも対応した。
活動の様子	  

③ごみ拾いイベントの開催

住民及び来街者などを対象に、楽しみながらごみを拾うイベントを開催した。

開催日	第1回目:令和6年12月14日 第2回目:令和7年 1月18日
参加対象	第1回目:18歳未満のお子さんと保護者1名以上 第2回目:18歳以上
イベント概要	スマートフォン上に通知される「浅草らしいミッション」(クイズ等)に挑戦し、ミッションのクリアに応じて付与されたポイントに基づいて景品等の配付を行った。定員は各回 100 名。
実施結果	第1回目:参加人数 102名(29組) ごみ総量:ペットボトル173本、ビン缶227個、たばこ1.81kg 他 第2回目:参加人数 60名(28組) ごみ総量:ペットボトル 74本、ビン缶122個、たばこ2.99kg 他
イベントの様子	  

(3) トイレ・公衆喫煙所対策

①便利マップ(ウェブページ)と二次元コードの作成

来街者が利用できる区内の公衆喫煙所や公衆トイレ、給水所の位置等を一元化したウェブページを作成した。また、ウェブページに遷移する二次元コードを掲載したツールをエリア内の店舗等に配付した。

公開日	令和6年11月29日
公開場所	台東区公式観光情報サイト「TAITOおでかけナビ」上
掲載ツール	卓上アクリルスタンド、カード、ポスター
配付先	浅草観光連盟正会員、浅草商店連合会加盟商店街、観光案内所 等
実績	アクセス数:6,099件 (※令和7年1月31日迄の実績)
作成物	

(4) 混雑緩和対策 【民間サービスの活用】

①店頭行列緩和実験

順番待ちシステムの導入により、店舗前行列の混雑を緩和することで、快適な歩行空間の確保と業務のDX化による経営効率等の向上を図ることを目的として実施した。

実施期間	令和6年12月～令和7年3月
利用実績	受付(発券)件数:3,132 件 言語別 日本語:54%、英語:37%、中国語:7%、韓国語:2%
実験の効果	・入店待ちの店頭混雑が一部改善された。 ・順番待ち客のキャンセル率(順番待ちからの離脱)が導入前に比べて減少した。(導入前 40%⇒導入当初 18%⇒3月 14%) ・受付担当の業務量が減少し、空席時間も減少している。 ・外国人客との意思疎通がスムーズになった。

②手ぶら観光の推進

ア 手荷物等預かりサービス

街路歩行の支障となる旅行者のスーツケース等の手荷物を預かるサービスを浅草文化観光センターで試行し、ニーズや利用動向を検証して今後のビジネス参入を促す。

実施期間	令和6年12月～令和7年3月
利用実績	【預かり点数】 419 件 延べ 1,623 個 【預かり期間】 1日 314 件(74.9%)、2日～ 7日 72 件(17.2%)、8日以上 33 件(7.9%) ※最長 30 日間

イ 手荷物配送サービス

旅行者のスーツケース等を宿泊ホテルから空港、駅、次の宿泊先へ直接配送するサービスを提供事業者と連携して区内宿泊施設等に普及させることで、街路混雑の緩和を図る。

実施期間	令和6年7月※～令和7年3月 ※補助金対象外事業のため、7月から実施		
利用実績	比較月	令和6年6月	令和7年1月
	取扱実績	1,486 個	2,577 個
	区内提携施設数	29 ヶ所	52 ヶ所
	・取扱実績は都内では台東区が一番多い。(令和7年1月取扱 渋谷区:2,353 個、中央区:2,353 個、新宿区:1,928 個)		

(5) その他

①全体デザイン

(1)～(3)の事業における製作物は共通デザインを作成し、事業全体の統一感と機運の醸成を図ったことで、観光客へメッセージを伝えることができ、プレスリリース配信後のメディア取材・露出によって、事業の認知向上に大きく寄与した。

スローガン	江戸らしく、粋な心で、「EDO IT！」
キービジュアル	浮世絵風のイラストを採用
その他コピー	思い出と一緒に、自分のごみも持ち帰ろう。